

〔目的〕 現代の家庭生活は核家族化、女性の社会進出、食品産業の発達などにより、食生活においては手作りが減少し、簡便化、省力化の傾向が強くなっている。食生活は家庭生活の基本であり、と同時にその国の文化が最も象徴的に表われる部分でもある。そこで儒教の影響を強く受ける韓国の食生活における省力化の実態を明らかにするため、食生活に関する家事の省力化の度合い、加工食品並びに外食の利用状況等を社会的、経済的要因と個々人の意識、生活を取り巻く環境から分析を行う。

〔方法〕 ソウルに居住する成人女性を対象に江南区(山の手)と城東区(下町)の地域選定を行い、留置法によるアンケート調査を行った。調査期間は1995年9月~10月の間である。

〔結果〕 ①外食利用度及び加工食品の利用頻度は世代別に見ると30代以下が最も高く、50代以上となるとその割合は低くなる。②家族揃っての外食利用頻度は月に1~2回が半数を占めている。また家族構成別、子供の年齢、専業主婦、有職主婦かによって差がみられた。③手作りする理由については家族または作り手の嗜好に合わせるとの回答が最も多く、食品の衛生、安全性の為に手作りを指向する、といった生活環境面からの特色も見られた。④加工食品を購入する理由は労働節約との回答が最も多かった。⑤韓国の食生活の代表であるキムチは全体で見れば家庭で調理する割合が高いが、若年層になると加工済み市販キムチを購入している率が高くなっていく。⑥調理機器の使用頻度が高い順位は調理用ハサミ、圧力鍋、電子レンジの順であった。